

■ブラジル：夏季ピーク時間帯が夕方から日中に

ブラジル一般紙は2014年1月28日、夏季における電力需要のピークが、従来の18～20時から14時半～15時半に移っていると報じた。全国系統運用者（ONS）によると、夏季の最大電力は1月23日15時21分～15時24分に8,331万kWを記録した。ブラジル気象庁（INMET）は、サンパウロでの2014年1月の月平均最高気温は2010年の29.9度を大きく上回るとしている。記事では、ピーク時間帯が変化した最も大きな要因として、厳しい暑さによってエアコンの利用が増加したことを挙げている。それを裏付けるように、気温が比較的低い日のピーク時間帯は従来と同じ18～20時となっている。リオデジャネイロ・カトリック大学のソウザ教授は「暑い時間帯には、一般市民は自宅よりもショッピングセンターやレストランに在ることを好む傾向にあり、エアコンがフル稼働する」とし、商業用の夏季電力需要の約8割がエアコンによるものと分析している。一方、国内経済の構造変化も関係しているとの指摘もある。電力規制機関Aneelのドットラ前長官は「暑さもさることながら、国民の消費水準が高まりサービス分野の比率が上昇したことも要因として挙げられる」と指摘している。エネルギー調査公社EPEは、2014年の商業用の消費電力量は2013年比増となり、家庭用や産業用のそれを上回る4.4%と予想している。